

四一六一番

言問こととはぬ 木きすら春咲はるさき 秋あき付けば 黄葉もみちち散らく
は 常つねをなみこそ

四一六二番

うつせみの 常つねなき見みれば 世よの中なかに 心こころ付けず
て 思おもふ日ひそ多おほき

予あらかじめ作つくる七たな夕ばたの歌うた一首

四一六三番

妹いもが袖そで 我われ枕まくらかむ 川かはの瀬せに 霧きり立たち渡わたれ さ
夜よふけぬとに